

関西詩人協会会報

第75号
2014. 10. 1
発行者 有馬 敲

第21回 《設立20周年記念》 関西詩人協会総会・『関西詩人協会設立20周年記念誌』出版記念会

日時 11月16日(日) 13時30分より(13時から受付)
会場 エルおおさか 5階視聴覚室

懇親会・今年度会員の詩集・詩書出版を祝う会 10階宴会場(17時10分～)
参加費 総会 会員500円 一般1,000円 懇親会 6,000円

第1部 第21回(2014年度)総会 ◎司会進行 大倉 元委員

黙祷

- 1 開会挨拶 横田英子事務局長
- 2 代表挨拶 有馬 敲代表
- 3 議長選出(司会進行一任)
- 4 議事
 - ①運営事業報告 佐古祐二委員
 - ②会報発行報告 左子真由美委員
 - ③会計決算報告 岩井洋委員
 - ④会計監査報告 瀬野とし監査委員
 - ⑤インターネット・ホームページの報告 寺沢京子委員
 - ⑥次年度事業計画案 神田さよ委員
 - ⑦次年度予算案 岩井 洋委員
 - ⑧規約の改正について 横田英子事務局長
 - ⑨新運営委員について 選挙管理委員会より報告 原 圭治委員
 - ⑩質疑応答 各担当委員
 - ⑪議案採決
- 5 議長退任 尾崎まこと委員
- 6 新入会員紹介 横田英子事務局長
- 7 新運営委員の紹介 橋爪さち子委員
- 8 閉会挨拶

—— 休 憩 ——

第2部 ◎司会進行 外村文象委員

- 1 講演 講師 吉田定一氏
演題「童謡(うた)のころ・詩のころ」
—— 自作に添って ——
- 2 『関西詩人協会設立20周年記念誌』出版記念会
関西詩人協会の20年を振り返って
お話 志賀英夫氏
- 3 会員による詩の朗読
◎司会進行 すみくらまりこ
井上良子、近藤摩耶、佐相憲一、中尾彰秀、
中西衛、西崎想、森 清、各会員
時間があれば飛び入りの方も歓迎。



長い児童図書の編集生活時に、事務局員として子どもの文化研究所創設に参画。研究所長に城戸播太郎氏をお迎えし、その数年後辞して大学講師生活へ。白百合女子大学で「日本の童謡」、東京学芸大学で、「児童文学」「絵本」「童謡」の講座を持つ。上京して四十五年振りに帰阪。著書、詩集に、『胸深くする時間』(解説・佐古祐二)、『海とオーボエ』(野間児童文学賞受賞)。童謡集『よあけのこま』、他に詩画集『かつてうれしいねこいちもんめ』、絵本『かばのさかだちあいうえお』、詩選集『母よ誰が一詩で語る戦争と平和』『吉田定一詩選集』等々、多数ある。評論集に、『童謡と少年詩の現在』(共著)。古希を過ぎていまだに画家への夢消えず…。詩を朗読する詩人の会第7回「風」優秀賞受賞。

—— 休 憩 —— 懇親会準備 17:00～17:10(10階宴会場に移動。ロビーにてお待ち下さい)

懇親会 懇親会ならびに会員の詩集・詩書出版を祝う会 17:10～19:10 ◎司会進行 北原千代、中尾彰秀各委員

- 1 開会のことば 薬師川虹一委員
- 2 会員の今年度出版詩集・詩書ならびに著者の紹介 寺沢京子、藤谷恵一郎各委員
- 3 乾杯 岸本嘉名男委員
- 4 閉会のことば 河井洋委員

本号の主な記事
 ①面 第21回 《設立20周年記念》 関西詩人協会総会・『関西詩人協会設立20周年記念誌』出版記念会
 ②面 選挙結果報告／関西詩人協会設立20周年記念 2014年詩祭報告
 ③面 同右
 ④面 同右／新入会員紹介
 ⑤面 詩画展報告／追悼・下村和子氏／運営委員会の模様第五回
 ⑥面 会員の活動・イベント

選挙結果報告

関西詩人協会運営委員及び

会計監査 選挙結果報告

平成二十六年総会より三年間を任期とする運営委員及び会計監査の選出の選挙結果を報告致します。
 八月七日開票作業。投票用紙配布数は二九二名。投票数九六名。(内棄権一名。無効一名。無効票一六票。)開票結果、役員選出細則五にもとづき票数上位より順次依頼した。
 なお、代表有馬敲氏については、運営委員会全員一致にて選出した。
 役員としては、次の諸氏を選出した。
 (◎は新任、敬称略。)

●運営委員

- 原圭治 ◎永井ますみ 佐古祐二 近藤摩耶
- 中尾彰秀 河井洋 すみくらまりこ 大倉元
- ◎名古屋よえ 岸本嘉名男 岩井洋
- ◎田村照視 薬師川虹一 ◎村田辰夫
- ◎榎次郎 外村文象 ◎吉田定一 ◎佐相憲一
- ◎奥村和子 ◎釣部与志 以上二十名

次の諸氏は辞退された。

- 蔭山辰子 以倉紘平 武西良和 藤谷恵一郎
- 熊井二郎 北村真 瀬野とし 佐藤勝太
- 青木はるみ 以上九名

●会計監査 瀬野とし 以上一名

●地区評議員

今回の運営委員に三重県からの委員の選出がありませんでしたので、評議員として依頼した。
 津坂治男(三重県)

〈選挙管理委員会〉

- 原圭治(委員長) 近藤摩耶(会計) 蔭山辰子
- 榎次郎 田村照視

※報告・文責 原圭治

関西詩人協会設立20周年記念 2014年詩祭

後援 大阪府 大阪市 関西・大阪21世紀協会
 大阪文化団体連合会 日本現代詩人会
 日本詩人クラブ 詩人会議

詩誌交流詩祭「詩はどこへ」報告

- ◇日時 2014年7月5日(土)
- ◇一部 13時30分～17時15分 二部 17時30分～19時30分
- ◇会場 一部・二部とも 大阪リバーサイドホテル
- ◇一部参加者104名 ◇二部懇親会62名
- ◇参加者氏名一覧は文末掲載。
- ◇展示詩誌は84詩誌、一覧は末尾掲載。
- ◇以下ご氏名の敬称は略させていただきます。

■一部 司会進行 神田さよ・岩井洋

- 一、開会の挨拶 関西詩人協会代表 有馬敲
- 二、祝辞 詩誌を代表して 熊本『新燎原』藤子迅司良
- 三、記念講演『詩の発生と現実』 森田進
 『詩と思想』前編集長 森田進
 *講演要旨は、末尾掲載



森田さん講演の様子

四、詩の朗読

- 九州・沖縄 中国・四国

近畿

中部

朗読された詩作品の題名等は割愛させていただきます。

- 『筑紫野』草倉哲夫
- 『火皿』上田由美子
- 『逆光』宮田小夜子
- 『ONL』山本衛
- 『あ・う・ん』根来真知子
- 『風鐸』松原さおり
- 『青い花・翔』おしだとしこ

五、パネル・ディスカッション「詩はどこへ」 *要約は末尾に一括掲載



パネルディスカッションの様子

六、終わりの挨拶 薬師川虹一

なお、参加者全員にこの催しについてのアンケート用紙を受付時に配布した。(要約の抜粋は末尾に掲載)

■二部 司会進行 河井洋・近藤摩耶

- 一、歓迎の挨拶 横田英子
- 二、乾杯 岐阜 稲垣和秋
- 三、懇談、食事①音楽演奏、②手品、③テーブルスピーチ
 ①合唱(チーム名 赤色が好き)
 糸林そのみ 北川聖子 徳永真知子
 ②大倉元 ③については多数につき氏名は略させていただきます。
- 四、終わりの挨拶 左子真由美

以上



会場の様子

- ◆◆展示詩誌一覧 順番は受付順
- 1 詩の架け橋 (京都市) 2 ばらいろ爪 (大津市) 3 PO (大阪市)
 - 4 森羅通信 (和歌山市) 5 緑 30km (新見市)
 - 6 コウサテン (碧南市) 7 万河 Bana (高松市) 8 湖 (高松市)
 - 9 みえ現代詩 (鈴鹿市) 10 新燎原 (熊本市) 11 筑紫野 (小郡市)
 - 12 無責任 (熊本市) 13 ジャンクシオン (福沢市)
 - 14 Messier (西宮市) 15 瑠璃環 (奈良市) 16 軸 (寝屋川市)
 - 17 複眼 (唐津市) 18 詩と真実 (熊本市) 19 どおるかまら (鎌倉市)
 - 20 交差点 (神戸市) 21 神戸現代詩 (神戸市) 22 風鐸 (大和郡山市)
 - 23 くり屋 (広島市) 24 seed (佐保市) 25 季刊午前 (福岡市)
 - 26 パーメントプレス (那覇市) 27 知井 (京都市)
 - 28 視力 (宮崎市) 29 モテラト (和歌山市) 30 くらだ (周南市)
 - 31 菱 (鳥取市) 32 ゆひ Yui (彦根市) 33 ぼとり (岩出市)
 - 34 御貴洛 (大分市) 35 水馬 Susima (四日市) 36 樹音 (奈良市)
 - 37 GAGA (福岡市) 38 詩脈 (鳴門市) 39 木立 (福井市)
 - 40 あーん (京都市) 41 虹野 (北九州市) 42 ササ (高知市)
 - 43 粹青 (岸和田市) 44 石見詩人 (益田市) 45 朱雀 (京都市)
 - 46 ONL (四万十市) 47 銀河詩手帖 (大阪市) 48 火曜日 (神戸市)
 - 49 プライム (神戸市) 50 撃竹 (養老町) 51 石の詩 (伊勢市)

- 52 かわせみ・翡翠 (名古屋) 53 異郷 (堺市) 54 叢生 (神戸市)
 - 55 多島海 (神戸市) 56 沃野 (名古屋) 57 ほのお (新居浜市)
 - 58 独行 (名古屋) 59 とびうお (北九州市) 60 トンビ (高島市)
 - 61 解纜 (日置市) 62 新怪魚 (和歌山市) 63 兆 (高知市)
 - 64 アンブロシア (熊本市) 65 侃侃 (福岡市) 66 蘭 (尾道市)
 - 67 葦 (三重・玉城町) 68 ふーが (近江八幡市)
 - 69 カンピエヌ (豊中市) 70 アゴ (浦添市)
 - 71 はくふ・とん (彦根市) 72 黄薔薇 (倉敷市)
 - 73 Solist (京都市) 74 鈴 (京都市) 75 詩と重話 (このて) (柏原市)
 - 76 イリヤ (羽曳野市) 77 翔 (名古屋) 78 扉 (佐賀市)
 - 79 遠滾 (佐賀市) 80 月の村1番地 (大阪市) 81 三人囃子 (吹田市)
 - 82 リヴェール (大阪市) 83 呼吸 (京都市) 84 ガイア (豊中市)
- ◆◆森田進氏記念講演 (主旨要約)
- 一、大阪にきて
- ・ 学生時代は京都在住、大阪住いは50年ぶり。
 - ・ 堺市に3・11の3日後に教会牧師として赴任。
 - ・ 東京での「詩と思想」の編集長を辞めてから、神学校で学んだ。卒業間際に東日本大震災に遭う。
 - ・ 言葉の違いに戸惑う。
 - ・ 妻は京都の人間であるが、私は共通語、ここらを前提で話をすすめられた。
- 二、「詩の発生と表現と現実」という今日テーマ
- ・ ドイツ哲学者ヘルダーリン「詩は言葉の建築」。
 - ・ 漢字でも言葉の寺——寺とは現代風に言えば大学。
 - ・ 日本の伝統文学は女性のもので、明治以降も抒情詩としてうけつがれる。
 - ・ 一方漢詩の系譜も叙事詩として透谷、啄木を経てプロレタリア詩——リアリズムの系譜にながれる。
 - ・ 戦後の歴史の上に誕生した現代詩は、単純に分類不可で、説明不可といったらよい。
 - ・ 今日参集のみなさん自身の詩の発生はいったったか、そもそも詩とは何かという問いにどう答えるか、そこを後 (パネルディスカッション) で話あいたい。
- 三、私の経験から
- ・ 自分がかわわって来た「詩と思想」は、かような全国の詩の営みを俯瞰しながら、それぞれの地域の真摯な詩運動を発見、交流の舞台を提供してきた。
 - ・ 関西では、PO最新号の特集に着目した。そこでは、関西という括りも、また全国誌たらんとする拘泥もない。
 - ・ ここで、事前配布の手元資料の八木重吉の詩をよみながら、現在——今の今を生きていることの意味を説きながら、自然と三六歳の時に韓国で日本語と日本語文学を教えたことに移行。時あたかも朴正熙大統領時代。この時代に韓国大学生に八木の詩が読まれていることを発見。
 - ・ 次に、ハンセン病を病んだ詩人桜井哲夫 (長峰利造)

- の詩について朗読解説。次第に森田がプロテスタントの牧師であることが滲みでてくる。
- ・ 次に、つい先ごろ故人となった「下村和子」の「ドア」という作品について朗読と解説。また、「田村照視」の「世紀の大罪の跡」という詩の前半が後半に反転していく視点について解説。この詩は関西の詩人の3・11に対する貴重なものを含む。
- ・ 次に奈良の詩人「塩寄緑」の「魚のさきの」について詩の一つの典型として紹介。この作品は奈良という土地とその歴史があればこそその作品である。東京を舞台にはこれほどの幻想を羽ばたけたいのではないかと。
- ・ 次に自詩二編を紹介。一つは瀬戸内海、一つは、半世紀あまりに及ぶ韓国との付き合いを踏まえたユーラシア大陸への憧れに近い幻想を作品化した詩。
- かように、詩は多義多様であり、「詩はどこへ」といっても正解はないとおもう。
- ・ ここで取り上げた詩と、その詩のコンセプトを再度復習。
- ・ そして最後に「表現について」は、論理化することは得策ではないのではないかと。
- ・ 他者の詩を謙虚に読むという行為がむしろ求められる。そして、自分の詩を身近な人に読んでもらう。自分の詩を朗読して聞いてもらうというようにすることが大切ではないかと。
- ◆◆パネルディスカッション内容要約
- ◆◆コーデネーター 原圭治 アドバイザー 森田進
- ◆◆パネラー
- 九州・沖縄 『侃侃』 田島安江
 - 中国・四国 『黄薔薇』 高田千尋
 - 中部 『石の詩』 北川朱実
 - 北陸 『木立ち』 川上明日夫
 - 近畿 『PO』 佐古祐一
- ◆◆あらかじめ主催者側から左記四項目を提示。
- ① 詩誌発行の現状から見えてくる課題はどのようなものか。② 各地方で発行されている詩誌の理念や利点、弱点。③ 各地方で詩誌のネットワークができるものでしょうか。④ これからの現代詩の行方、特に詩誌発行を続ける意味。
- ◆◆ディスカッションの内容、各氏発言要旨をまとめると概ね次のようになりました。
- ① ②の設問に対して
- ・ 詩誌の中核構成員の高齢化が進む一方、若い人たちが、他の分野、短歌・アニメ・アート・音楽にその活動の中心が移動しているようだ。そして、紙離れ、つまりインターネット上とその活躍の場を求めるものが多いのではないかと。というような意見が、共通して提示された。
- ② ③の設問に対して

・理念に対しては、各誌、独自のものがあってよいし、そうあるべきだ。ということに全員の発言が一致した。

・利点・欠点に対しては、種々多様で、発表する場があることはともかくもよいことだ。特に近場で、互いの作品を生の声で批評しあえるということが利点である。ただし、それが甘えに通じるという欠点も同時に成立するという意見もあった。

・右の意見とは別に、中央・地方という関係でなく、自分がいるところが中央である。また、地方・中央の考えは今日不要ではないかという意見があり、同時にいやや地方に拘って発信し続けるというパネラーもいた。

③の設問に対して

・詩人同士の交流と詩誌間での交流は可能。例えば単位を広げた関係——関西ではこの関西詩人協会、中四国詩人会などもある。他面、詩人は群れることを嫌う傾向があることも念頭にいれる必要があるという意見もあった。

また、地方であればこそ、詩の近縁文化芸術との交流も結構行われるようになってる。

④の設問に対して

・詩をやる人が高齢化し、若い人の参加が少ないというが、これからも、やりたい人はやればよいし、そうでない人は去ればよい。とにかく、私は死ぬまで詩をやり続けるだろう。というような主旨発言のパネラーが複数存在した。

また、それと同意見なのかもしれないが、詩は元来孤独な作業であり、その意味で明るい未来があるとも思わないが、絶望もしていないという意見も複数あった。

・従来の紙媒体の他に、インターネットの利用も大いに在り得る。これも複数。・インターネット他、詩の近縁文化芸術とのコラボということも発展可能ではないか。・会場との意見交換が複数あったが、記載は割愛する。

・最後に森田講師から、「詩をだれに向かって書くか」という問いかけが会場参加者にむかってあり、それに関係して、配偶者に読んでもらっているかという問いがあり、

①妻が詩人で夫に読んでもらっている。または逆の②夫が詩人のケースについて、参加者104人中①8人、②12人ほどあった。

◆◆参加者アンケートより

一、記念講演の森田講師の話は内容、語り口がとてよかったと好評。

二、詩の朗読について、自分の詩を朗読するということが好評。

三、パネルディスカッションについては、詩の未来についての深い話が聴けてよかったという意見もあれば、各パネラーの意見の違いについても少し突っ込んだ討論がほしかったという意見等。

四、その他、運営については各地方からいろいろな人が参集し、新たな図が広がった、これからもかような企画を期待する。

◆◆参加者氏名

- 秋月夕香 秋野光子 有馬敲 糸林そのみ 石浜繁子 市原礼子 猪谷美知子 井上哲士 稲垣和秋 岩井洋 上原和恵 上田由美子 内田縁 後恵子 大倉元 岡本真穂 おかゆえ 尾崎まこと おしだとしこ 藤山辰子 亀井真知子 香山雅代 河井洋 川上明日夫 川口千恵子 神田さよ 岸田裕史 岸本嘉名 男 北川朱実 北川聖子 北原千代 北村真清 沢桂太郎 桐野かおる 熊井三郎 栗本和子 小池栄子 呉屋比呂志 近藤摩耶 嵯峨京子 佐々木城 佐伯圭子 齊藤明典 左子真由美 佐古祐一 迫田智代 下田喜久美 白井ひかる すみくらまりこ 瀬野とし 草倉哲夫 高田千尋 竹内正企 TAMAKO 武西良和 田島廣子 田島安江 田村かおる 田村照視 司茜 司由衣 釣部与志 手皮小四郎 寺西宏之 徳永真知子 長岡文象 中尾彰秀 中西衛 永井ますみ 外岡紀子 中牟田智子 名古屋よえ 苗村和正 並河文子 西崎想 西喜久子 根来真知子 信定和美 原圭治 広常睦子 平野裕子 福田ケイ 藤子迅司良 藤谷恵一郎 前田捷美 ますお かやよい 松原さおり 松村信人 万年青一 三田村正彦 南久子 宮田小夜子 村田辰夫 村野由樹 望月逸子 森清 森ちちく 森田進 薬師川虹一 安森ソノ子 山村由紀 山本衛 横田英子 吉田定一 以上104名

新入会員紹介

青山麗 (あおやま・れい) さん

とかく難しい「現代詩」。でも、いいなど感じる作品に出会うことが、確かにある。日常生活で記憶に残ったり、ふと頭の中をよぎったりしたことを切り取り、研ぎ澄まし、読むに堪える文章にして発表する。そんな芸当ができればなんて素敵だろう。女性のようなペンネームは、奈良盆地を取り巻く青い山々の麗さにちなんでいます。

TAMAKO (たまこ) さん

60歳を越えた頃より、焦りが出てきました。この星(地球)にいつまでもいられないので残された時間が、気になり始めました。暮らしもきびしく、まだ仕事をしていますが、次の星に旅立つまでに作詞が(も)できる人になりたいのです。そのためにも、もっと勉強したいと思いい入会しました。よろしくお願ひします。



中村純 (なかむら・じゅん) さん

1970年東京生。3年前に東京から京都に移住。東京で出版編集や教員をしていました。KBSラジオや三条ラジオオカフエ、町のカフェで、詩の講座を担当。暮らしの中に詩を。関西でも徐々に仕事と詩の交流を再開したいです。詩集『草の家』『海の家族』『はだかんぼ』『エッセイ集』『いのちの源流』愛しつづける者たちへ。



ハラキンさん



1953年、大阪府生まれ。フーテンみたいな身で上京し、やがて広告界に就職。昨年度大阪で再就職、単身出稼ぎ中です。長年広告人として生きてきましたが、高校時代から抱いていた「詩人として死ぬ」ためのエンジンが、ようやくかかりました。詩の可能性をさぐってあれこれ実験してまいります。よろしくお願ひいたします。

松原さおり (まつばら・さおり) さん



自分でも思ってもよらず詩を書いてみました。今迄心の中に乱雑に放り込んであったときめきや驚愕や嘆きなどが、作品が一つできる度に整理されて、あるべき場所に安置されていきます。心は透き間ができて涼しい風が通り抜けます。その風に吹かれるのが快くお仲間に入れていただきました。どうぞよろしくお願ひいたします。

村上弘 (むらかみ・ひろむ) さん



まだまだ詩については不勉強な私ですが、入会させていただいたことを励みにして、奥村和子先生、神田さよ先生に教えていただきコッパツと一篇でも人の記憶に残るような詩を作れるように頑張っていきたいと思っております。よろしくお願ひします。

詩画展報告 詩とのキラメキ空間を 次回にもまた

岸本嘉名男

関西詩人協会設立二十周年の幕開けに、詩画展へ出展者の皆様、及びご覧いただいた会員の皆様、どのように感じられましたか。

一瞬にきらめく、詩行と絵や写真、その他の得意技とのコラボレーション・スペースの妙に、人の心を惹きつける創作にめぐり合える機会となりましたでしょうか。

詩画展閉催直後の交流会では、熱のこもった賛辞や称賛が聞かれ、また、館内で自由に書かれた感想ノートにも、各出展者につながるのがある観覧者の方々から、どちらかといえは、「ほめ言葉」が散見されました。内容的には概ね充実していたように思われます。

でも、次年度に向けての課題も提出されました。それは、「見ていただく人たちのために、もっと配慮がなされるべきだ」、具体的には、詩の一字一句が小さくて、読みづらい、これは致命的な指摘でしょう。プロとして、この基本をこの際しっかり確認しあえれば、周年行事の立派な効果、価値ある教訓を得たといえるのではないのでしょうか。

最後になりましたが、出展者の皆様、交流会にご参加の皆様のお名前を拝借して、共にこの努力への敬意を祝いたいと存じます。係として、種々のご支援に感謝申し上げます。

参加者

秋野光子・井上良子・市原礼子・大倉元・尾崎まこと・梶谷忠大・和比古・加納由将・香山雅代・河井洋・神田さよ・岸本嘉名男・北口汀子・北原千代・近藤摩耶・近藤よしはる・斉藤明典・榊次郎・左子真由美・佐藤勝太・清水一郎・田島廣子・外村文象・中尾彰秀・永井ますみ・名古きよえ・苗村和正・橋爪さち子・原圭治・ますおかやよい・三島佑一・村野由樹・横田英子・吉田定一以上

スナップは搬入を終えて



追悼・下村和子氏

藤谷恵一郎



関西詩人協会二〇周年詩誌祭の実行委員長だった下村和子氏が、五月十四日お亡くなりになりました。心残りもおありになったと思いますが、詩誌祭のレールは彼女の手配で引かれてあり、残った私たちはそのレールを、原圭治さんを先頭にそれぞれの担当をこなして前へ進めばよい状況でした。講師の森田進氏をはじめ遠方からの朗読者の方も、下村さんからの依頼という事で快諾されたというお話があり、下村さんの生前の活動の深さ・広さを改めて感じていました。

二〇一一年詩集『いろはにはへど』
二〇一二年『下村和子全詩集』
二〇一三年短編小説集『今日だけの女』を立て続けに上梓なされました。『全詩集』の「あとがき」に「七〇歳を越えた頃から、死を確実なものとして意識するようになった。」「実行できるかどうか分からないが、必ず、次の一冊、二冊、三冊を書きあげるつもりでいる」とあります。創作への強い思いに溢れています。その意味でもご本人だけではなく、下村和子ファンにとっても詩壇にとっても残念なことだと思えます。

最後に、私の心が震えた詩「弱さという特性」の最終連から、
私は本来なんの力も持たない
その弱さの故にやさしく 不動である
仏像に銃を向けると
微笑したまま 倒れて こわれる

運営委員会の模様 第五回

二〇一四年八月一六日
午後二時〜五時。
エルおおさか 出席一八人

- ①入退会 六名を入会承認し、一名退会で、現会員数二九三名となる。
- ②会計報告 二か月分につき承認。
- ③会報 次回発行は一〇月一日。
- ④ホームページ アクセス数は四八七五に。会報のアップの方法をPDF化してアップする方法に変更。会員の詩は、恋をテーマにした三名の詩をアップ。
- ⑤選挙管理委員会 報告を承認。開票結果は、別稿記事を参照。投票率向上のための工夫について討議。
- ⑥二〇周年記念イベント「詩はどこへ詩誌交流祭」 総括の報告討議。実施状況は別項記事を参照。
- ⑦バスツアー 準備状況を確認。参加申込数は現在二七名。バスの定員は四六名なので、まだ参加可能。
- ⑧二〇周年記念誌 進捗状況を確認し、表紙につき討議。
- ⑨今年度総会 同記念誌出版記念会を兼ねて開催することとし、同総会当日の運営委員の役割分担を決定。
- ⑩次年度事業計画案 討議し、次回運営委員会で新運営委員と合同で継続討議することとした。
- ⑪規約改正案 永年会員会費を全額免除から、半額(年額二〇〇〇円)とする事について規約改正を総会に提案することを決定。
- ⑫下村委員の逝去に伴う欠員の補充は、残任期間が残り少ないので、補充せずにおくこととした。

(文責 佐古祐二)

《会員活動》

有馬 敲氏・連作詩「ほら吹き将軍」(詩と思想詩人集) 2014・詩人会議8月号) 発表。6月13日付毎日新聞でエッセイ集「曲(がり)角」の著者として紹介記事が掲載される。

青木はるみ氏・産経新聞連載詩6月「雨が降れば」7月「くちなしの花を切りながら」8月「蛇は回ります」。PO154号特集「恋」に詩「お茶の白い花、ほら蠅取り草」

「詩人会議」8月号に詩「牛も笑っている」を発表。元興寺灯籠会に色紙作品奉納。尾崎まこと氏・7月13日、中之島公会堂で行われた詩を朗読する詩人の会「風」設立40周年記念イベントにおいて「現代詩の希望」と題して講演。

香咲 萌氏・日本詩歌句協会大賞において詩集『私の空』が努力賞を受賞。小林尹夫氏・「詩の朗読の夕べ」(世話人小林尹夫) 8月28日、第129回を開催。朗読参加者は14名であった。

佐相憲一氏・ネット詩集『SNSの詩の風41』編集・解説。「九条の会詩人の輪」事務局長(よびかけ人兼任) 就任。池袋小熊秀雄長長忌企画と司会。

白川 淑氏・山本十四尾氏「花話会」で「京のほそみち」が鑑賞されている。2月16日(12月21日(隔月))。6月7日、京都コンサートホールで高木充江氏により「京の雪・月・花」が歌われた。

外村文象氏・「詩と思想詩人集」2014に詩「春の気配」掲載。「コールサック」79号にエッセイ「春から夏へ―八十歳の日記」詩

「カリフォルニアの孫娘」掲載。中尾彰秀氏・8月10日 EARTHPOEMPRO [EC]23「まつむし音楽堂」9月14日、同第24回和歌山市「TOYBOX」にて。テーマ「この世の出自と使命」。詩評300達成。ブログ <http://earthpoemproject.or.jp/>。

永井ますみ氏・5月6日大山町(鳥取県)の門脇家住宅で門脇康一さんのギターとのコラボ「弥生の昔の物語」朗読。7月21日米子で同朗読、解説朗読市原礼子さん。7月22日鳥取市で同朗読会。両日は「弥生よもやま」と題してショートスピーチも行った。同じ企画を9月15日に妻木晩田遺跡(鳥取)で行う予定。

原圭治氏・標高二千メートルで七月開催の第11回美ヶ原高原詩人祭に作品「ジャカラングダの花よ」を出品した。安森ソノ子氏・第23回世界詩人会議(本年3月25日より大阪にて開催) 出演時の映像がインターネットで発信されている。当大会にて優秀詩人賞・優秀貢献賞を受賞した詩人として、指示により放映の必要上、日英語にて近作の詩・追加略歴・写真を北米本部へ発送。横田英子氏・7月13日(日) 詩を朗読する詩人の会「風」設立40周年記念イベントにおいて挨拶。

詩を朗読する詩人の会「風」6月に市原礼子氏がゲスト出演。7月13日、詩を朗読する詩人の会「風」創立40周年風フェスティバルにおいて、植野高志・神田さよ・司茜・村野由樹・村田辰夫の各氏が詩を朗読。

《今後の予定》 小林尹夫氏「詩の朗読の夕べ」(世話人小林尹夫) 毎月第4木曜、午後6時〜熊本市現代美術館。テーマ11月「自由題」、12月「クリスマス」

香山雅代氏・10月12日、西宮芸術文化協会「秋の芸術祭」において野外彫刻展会場で朗読。 POの会主催・関西詩人協会後援「創刊40周年記念イベント 明日への一歩・詩のヴィジョン」/10月12日(日) 午後1時〜5時 /大阪キャッスルホテル6階(来賓のご挨拶 関西詩人協会代表 有馬敲氏) スピーチと詩朗読「私にとって詩とは何か?」 植野高志・大倉元・北村真・高丸もと子・橋爪さち子・ハラキンの各氏 ○アルゼンチンタンゴの演奏 ○講演 荒川洋治氏「現代の詩・これからの未来」お申し込みは左子真由美まで。

《入・退会など会員の移動》 退会者 朔子氏 一名 入会者 青山麗 ハラキン TAMAKO 松原さおり 中村純 村上弘の各氏 六名 会員数 二九三名

《会員の最新刊詩書》 有馬敲・佐相憲一共編著 『現代の風刺25人詩集』 コールサック社 たかまるもとこ詩集 『クーとマックのおはなし』 らくだ出版 薬師川虹一・詩と写真『石佛と生きる』 ギャラリーbe 京都 神田好能詩集『あなたがいるから』 竹林館 井上庚著『頑固な軍国少女が教師を経て反戦詩人になった理由』 浮遊社 岩井洋・刀根策之介・呉屋比呂志編 『河本澄一遺稿詩集』 明日の詩の目覚めに」 竹林館 名古きよえ詩集 新・日本現代詩文庫116 竹内正企評論と歌詞『淡海のうた』 竹林館 瀬野とし詩集『菜の花畑』 土曜日美術社出版販売

近藤八重子詩集『人生は万華鏡』 自家版 田中信爾写真詩集『音の変幻』 竹林館 《お詫びと訂正》 前号においてご紹介しました辻田武美さんの詩集『道すがら想いは広がる』は書名が誤っておりました。「広がる↓ひろがる」でしたので、お詫びし訂正させていただきます。

《団体の会報・図書》 岡山県詩人協会 岡山県詩人協会 岡山県詩人協会 岐阜県詩人協会 高知詩の会通信 11 中日詩人会会報 180 中日詩人会 福井県詩人懇話会会報 86 福井県詩人懇話会 千葉県詩人クラブ会報 226 千葉県詩人クラブ事務局 姫路文学 128 姫路文学界 詩界通信 67号 日本詩人クラブ 日本現代詩人会会報 135号 日本現代詩人会 群馬詩人クラブ会報 287 群馬詩人クラブ 山形県詩人会会報 26 山形県詩人会 OCS202 大阪文化団体連合会 福岡県詩人会会報 159 福岡県詩人会 いわたの詩 2014 岩手県詩人クラブ詩の会復刊 34 宮崎県詩の会会報 宮崎県詩の会 芦屋芸術 7 横浜詩人会通信 291 横浜詩人会 山梨県詩人会会報 14 山梨県詩人会 兵庫県現代詩協会会報 35 兵庫県現代詩協会 埼玉詩人会会報 75 埼玉詩人会 いしかわ詩人第九集 石川詩人会 栃木県現代詩年鑑 平成26年版 宮城県詩人会会報 19 宮城県詩人会 中四国詩人会 ニューズレター 36 中四国詩人会 秋田県現代詩人会会報 50 秋田県現代詩人会 静岡県詩人 122 静岡県詩人会

会員発行の詩誌

14年6月1日~14年8月31日

青い風 28	井本彦 彦平
アリゼ 162	以倉絃 圭治
公孫樹 34	原圭 治
大阪文化 64	水野ひかる 子
香川歌人 7月	藤原照 視
G A I A 49	近藤摩 耶
銀河詩手帖 265	田村志 静
呼吸 136	志田裕 史
秋桜 15	岸賀志 夫
CYPRESS9	原賀志 夫
軸Ⅲ次 4, 5	三浦千 賀
軸 112	小林尹 夫
憧憬	小生久 子
新療原 11	南きく 子
叢生 193	西真由 良
点燈鬼 51	左子真 和
放課後 4	武西良 和
PO154	津坂治 男
ぼとり 35	川本説 子
みえ現代詩 94	川本虹 一
百合樹創刊号	135・136
RAVINE191	横田英 子
リヴィエール	

次号(第76号)は1月10日発行です。記事の締切は、11月末日です。みなさまの活動をぜひお知らせください。記事は17字×4行でお願します。

関西詩人協会会報 第75号 発行者 有馬 敲 編集 左子真由美

関西詩人協会事務局 590-0141 大阪府堺市南区桃山台三二一五一四一 大阪市北区東天満二一九一四 千代田ビル東館7階FG 竹林館 左子真由美 TEL 06-4801-6111 FAX 06-4801-6112

次号締め切りは11月末日